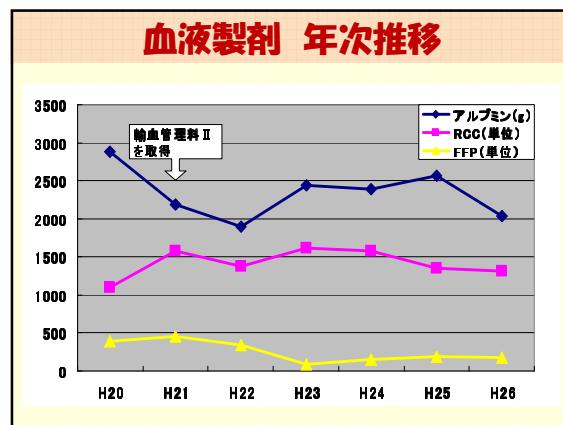




輸血療法委員会 構成メンバー	
委員長	1名 (副院長)
・脳外科	1名
・泌尿器科	1名
・産婦人科	1名
・医療安全管理責任者	1名
・薬剤科	1名
・医事課	1名
	計 14名
開催 : 6回/年	



病院の概要	
病床数	350床 (53床 地域包括ケア病床)
外来患者数	約726人/日 (H25年度実績)
件数	手術件数 2,945 件 分娩件数 738 件
施設基準	地域がん診療連携拠点病院 へき地医療拠点病院 DPC対象病院 小児救急医療拠点病院 看護配置基準 7:1 他
機器	320列CT、PET-CT、放射線治療装置IMRT MRI(3テスラ)
医師数	66名

輸血を取巻く、大きな変革	
年	事 項
H15.3	検査科へ輸血システム導入(オーヴィー BIO VUE)
H15.10	輸血療法委員会発足
H18.1	認定輸血検査技師配置
H18.5	輸血用血液製剤一元化(薬剤科から検査科へ)
H18.11	輸血実施確認書(輸血後感染症検査)稼働 電子カルテ導入(Fujitsu-Gx)
H20.12	・輸血用血液製剤依頼から輸血実施までシステムで管理 ・患者リストバンドを導入し、輸血時の患者認証に使用
H21.12	輸血管理料2 取得
H23.4	備蓄血液製剤廃止による、異型適合血輸血運用開始
H26.11	輸血後感染症検査運用変更

輸血研修会 内容 (年1~3回開催)

- 「血液製剤の使用指針」及び「輸血療法の実施に関する指針」について
- 濃厚血小板・FFPの適切な使用について
- 血液製剤の使用指針・輸血療法の実施に関する指針の改訂ポイント
- アルブミン製剤・新鮮凍結血漿の適正使用について
- 輸血副作用について
- 危機的出血への対応ガイドラインについて
- 緊急時の輸血　-大量出血時の輸血について-
- 貯血式自己血輸血療法の実際
- 不規則抗体検査について
- 失敗しない輸血～そのポイントVer.1～Ver.11
- 輸血製剤一元化に伴う変更点と留意点
- 当院の輸血を検証する!! あなたは、こんなことをしていませんか!!
- 輸血におけるヒヤリ・ハット
- 輸血に関するQ&A
- 輸血感染症について

輸血感染症検査運用

年 事 项

- | | |
|-----------|---------------------------------|
| H18.11 | 輸血実施確認書(輸血後感染症検査)稼働 |
| H22.8 | 輸血後感染症検査が実施されていないことを、輸血療法委員会で協議 |
| H23.4 | 輸血後感染症検査を、電子カルテの患者掲示板で依頼 |
| H26.8 | 輸血療法小委員会を立上げ
運用方法・患者への案内文を検討 |
| H26.9 | 輸血療法小委員会で案内文・運用決定 |
| H26.10 | 輸血療法委員会で了承 |
| H26.11.7 | 輸血感染について研修会開催 |
| H26.11.17 | 医局会へ報告 |
| H26.11.19 | 運用開始 |

輸血用血液・血漿分画製剤使用時の説明と同意書

① 條項の記載内容により、輸血用血液・血漿分画製剤の使用を承諾する旨の申出書

② リスク評価書

③ 條項の記載内容により、輸血用血液・血漿分画製剤の使用を承諾する旨の申出書

④ 條項の記載内容により、輸血用血液・血漿分画製剤の使用を承諾する旨の申出書

⑤ 條項の記載内容により、輸血用血液・血漿分画製剤の使用を承諾する旨の申出書

⑥ 由公認検査室による検査結果

輸血後感染症検査の案内

H25年11月 HIV感染者の血液が輸血され、1名感染

H25年10月 H25年6月に献血された者にHCV感染疑い。H21年にこの献血された患者がHCV陽性と判明。H26年7月に献血された患者がHCV陽性と判明。

H26年7月 連用変更するど～

まとめ

●今回の運用変更では、医師・看護部・検査科と、役割分担したことにより、確実に患者へ情報提供ができるようになった

課題

- 1)昨年11月より運用開始したため、患者への情報提供はできているが、どの程度検査を受けられるか検証できていない
- 2)当院以外の医療機関で検査される場合、他院が対応可能か(保険請求を含め)
- 3)他院で検査された場合、当院で把握すべきか
- 4)統一した案内文があれば、運用しやすく開業医も理解しやすいのでは